

令和5年度第2回 荒川区芸術文化推進会議 議事要旨

日 時	令和5年12月6日(水) 16:00~17:00
会 場	区役所4階 庁議室
出席者	<p>< 委員 > 本郷寛座長、平野千里委員、菅谷安男委員、田中豪元委員、大村みさ子委員、宮腰肇委員、谷井千絵委員(荒川区地域文化スポーツ部長)、三枝直樹委員(荒川区教育委員会事務局教育部長)</p> <p>< 事務局 > 須田文化交流推進課長 中館計画調整担当係長、白石文化振興係主事</p> <p>< オブザーバー > 青谷生涯学習課長、山下ゆいの森課長、矢代観光振興課長</p>
議事要旨	<p>1 荒川区芸術文化振興プラン素案(案)について</p> <p>< 事務局 > 素案について説明</p> <p>~ 意見交換 ~</p> <p>非常に色々と努力していいと思う。荒川区には素晴らしい都電や、非常に長い歴史がある東京荒川少年少女合唱隊もあるので、もっと区が予算をとって援助やPRをしてほしい。</p> <p>バレエについても、子どもに習わせるのに、お金がかなりかかるため、始めるのに尻込みをしている人達も多い。少し援助があると良いと思う。</p> <p>いくらいいものやっても、皆に知れ渡ってないと、誰も来ないということになってしまう。区の掲示板にポスターを貼るだけでなく、もう少し知恵をしぼったPRをしないといけないと思う。予算がかかるかもしれないが、多少は仕方ないのではないかと思う。</p>

PRをするのはすごく大切なことだが、ただPRするだけではなく、基本的には、文化振興と同じような方向性をもって進めていくことが必要であると思う。ただ、PRがどのような形でできるかということについては、議論をいただいた方がいい。

どのようにして更にPRを行うことができるかということについてご意見はあるか。

ACCでは、地域に対してほっとタウンという情報誌を毎月1回発行しているほか、ACCのHPで同様のPRをしている。若い世代を中心にSNS、特にX（旧Twitter）での発信も積極的に行っている。

アンケート結果では、年齢層の高い世代は紙媒体で公演情報を得ている方が非常に多く、子育て中の若い世代はどちらかというとHPやX（旧Twitter）の情報を非常に頼りにしているという結果になっている。そういった意味では、紙媒体とHPやX（旧Twitter）などのデジタルの両方組み合わせるということで効果的なPRができると思う。

また、紙媒体についても、読者をさらに惹きつけるようなコンテンツを用意して、読み物として毎月楽しみに見てもらえるような中身にしていきたいと考えている。

我々としても、PRは非常に重要であると認識しており、これまでも取り組んできてはいるが、十分ではないと考えている。世の中の流れが速くなり、次々と新しい手法が出てきており、それにも対応していく必要がある。

素案の基本目標5において、「荒川区の魅力を発信する」を掲げており、特に「5-3 荒川区らしさの発掘・発信」をさらに力を入れて進めていきたいということで、重点施策に設定した。

ご意見をいただいたPRのやり方については、紙媒体やSNSを使うという手法についても、今後変化してくるであろうと思うので、対応しながら次期プランにおいても取り組んでいきたい。

さらに、子どもたちに色々な体験をさせてほしいということについて、区としても重要だと考えており、基本目標2の「子どもの創造力を高める」の「2-2 創造性を育む文化芸術活動の推進」の中で、子どもたちの実際の体験の機会創出を重点施策にしている。区民の皆様のご意見を伺い、庁内の関係部署と

もよく協議をしながら、できるだけ体験の機会を増やしていけるよう進めていきたいと考えている。

若者を入れていくことが、今後に継承していく意味では大きいと思う。個人的には、Z世代に共感してもらって一緒に手を組めるような形であれば、文化として残っていくのかなと思う。若い世代がどうPRを捉えていくのか意見を取り入れ、若い世代にPR部門を任せてみるといったこともできると思う。二十歳のつどいの(実行委員会の)若者たちも、継続的に色々と活動をやっている。そういった世代をPRに取り入れ、彼らの感性や卓越した技術、突拍子もないセンスなどを活用してはどうか。

今ちょうど子どもの活動の中で、若者たちが横のつながりで手を組み、都立大も含めて、色々な所で色々な活動を少しずつ起こしているところである。二十歳のつどいの延長でもいいが、彼らに若者目線でのPRを任せていくようなものがあったら、荒川区が逆にモダンになるのではないかと思う。

大変革的な話、難しい話でもあるが、荒川区の文化振興が活性化する上では、そういった視点はやはり大切であると思う。

ご指摘のとおりであり、区役所は、二十歳のつどいを除くと、高校生以上の若者と接点がほとんどない状態であった。最近、福祉の分野において、悩みを抱えている若者への支援として、若者相談の「わっか」という窓口を立ち上げたところである。一方で、若者たちにますます情報発信してもらうことは、非常に重要な視点だと考えている。既存の事業においても、若者をとりこんでいくといったことができるのではないか。全庁的に、議会も含めて、若者支援を推進していく流れになっているので、地域文化スポーツ部においてもできる限り担っていきたい。

生涯学習課では、二十歳のつどいを所管している。昨年度、二十歳のつどい実行委員の中から生まれたアートで人をつなぐ「あらかわぼっせ」は、今年度に生涯学習センターで行った生涯学習フェスティバルにもブースを出展し、地域の方々とアートで交流を深めてもらった。今年度は、17人が実行委員に手を挙げており、二十歳のつどいの準備を進めているところである。こちらが思いつかないアイデアをたくさん持っているので、PR方法についても聞いてみれば、

彼らからの新しい提案もあるかと思う。

昨年度初めて、生涯学習課と広報課が連携し、文化団体の各団体についてのPR動画を作成し、YouTubeにあげている。今の若者は長い動画はあまり見ないということで、短時間で伝わる動画を作成した。参加する若者の声を聞くなど、今後のPRにつなげていきたい。

素案の中で、例えば「施策1-3の区民や区民団体、関係団体との連携・活動支援等」の部分に含まれることでもあるので、若者という視点も加えたい。

若者というけれども、この会議の委員も年齢層が高く、若者の委員がいない。若者の発言は、内容がわからないものになる可能性があるが、逆にわからないものがいいということもある。

前日も発言したが、都電に乗って区外から来る人にとって、サンパールの場所がわかりづらい。区外の人に、「荒川区っていい所ね」と言わせないといけない。

荒川区が更に良くなっていくためには、やはりPRは大事であると思う。

先ほどから若者という発言がたくさん出てきているが、どちらかと言えば美術の分野は年齢層が高く、若者をいかにして集めるかということが課題となっている。若い人たちの興味が、デジタルに向かっているようで、改めて絵を描こうとか見ようとかいう感覚がなくなってきているのではないかと感じる。

PRも重要で、大変だと思う。

区報やほっとタウンなどは見る人が固定化しており、見ない人は全く見ない、触れないということが良くないと思う。

また、今は、昔のように一つのことに夢中になり、資金を掻き集め、突き進めていく人がいないように思う。そうになると、一生懸命やっても、魅力がなく、空振りになってしまう。どんないいものでも、そこに人が集まってもらわないと開催した意味がないと思う。思い切ったことをやった方がいいと思う。

夢に突き進むというのは大事なことであるが、現実の問題とそのすり合わせが非常に難しいところだと思う。そこをどうすり合わせていくのか、また皆で応援していくという形が大事であると思う。文化振興の文化がなくなった時

には大変な問題が起きると思うので、文化というものを大切にしていかなければならない。

地域の文化の主役は区民の方なので、区民の方がこうしたいということには、寄り添って実現できるようにしていくのが区の役目だと考えており、それをプランの一番の大元にも据えている。ただ、やり方というのは時代を経て変わっている所以、多面的に考えていく必要がある。

本日皆様からいただいたご意見や、これから実施する予定であるパブリックコメントでのご意見を踏まえ、本案を作っていきたいと考えている。

文化というのはすごく大事なキーワードになってきていると思うので、ぜひ文化振興を進めていただきたい。

今回、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえて、芸術文化振興プランに、事務局で反映・修正いただくようお願いしたい。最終修正については、座長に一任いただきたいがいかがか。

(一同 異議なし)

本日の審議をこれで終了する。

2 今後の予定について

<事務局>

今後の予定について説明